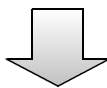


《学校の経営方針（令和5年度 学校運営の重点【スローガン】）》

1 本校児童の実態（良さと課題）とスローガン

- 良さ＝素直さ。異学年・男女の仲の良さ。言われたことを真面目に取り組めること。
- 課題＝受け身的で主体性に欠けること。

☆ スローガン ☆



「子どもたちの“素直さ”を伸ばし“主体性”を高める」

「素直さ」のとらえ

◇辞書的意味

- ①飾り気なくありのままなこと。曲がったり癖があったりしないさま。質朴。淳朴。
- ②心の正しいこと。正直。
- ③おだやかで人にさからわないこと。従順。柔和。
- ④物事がすんなりゆくこと。とどこおりないさま。
- ⑤技芸などで、癖がなく、すっきりしていること。

◇伸ばしたい「素直さ」

- 飾り気なくありのままな姿勢。 ○心の正しさや正直さ。

「主体性」のとらえ

○自分の意思・判断により、自ら責任をもって行動する態度。

- ※ 決められたことや言われたことを率先して行う（自主性）レベルではなく、自分の意思・判断により、自ら責任をもって行動する態度ととらえる。

2 目指す子どもの姿…スローガンを学校教育目標と照らして

「つよく」・・・大人の判断に依らず自分の意思・判断で行動する姿
また、それに通ずる姿

「かしこく」・・・自ら『問い』をもって追究する姿（主体的に学ぶ姿）

「あたたかく」・・・心の正しさをもって友だちと仲良くかかわり合う姿

※ 『問い』＝追究するに値する「願い」や「疑問」

3 重点的な取り組み（教職員の姿勢）

「つよく」（大人の判断に依らず自分の意思・判断で行動する姿を支える）

- ・行事・学級活動・児童会活動・クラブ活動を中心に、教職員のお膳立てを極力減らし、子どもたちの『問い』を大切にしながら子どもたちの考えで活動が進められていけるように支援をする。

「かしこく」（自ら『問い』をもって追究する姿を支える）

- ・授業感（授業基本理念）である、淀川茂重先生の言われた「児童の教育は、児童にたちかえり、児童によって、児童のうちに建設されなくてはならない。——児童はみずから歩いて行く。わたしたちは児童を歩ませる。そこに教育を発見し創造することである。」に立ち返り、学びの主体者である子どもの『問い』を大切に学習を創造する。また、そのような学習のなかで、ICTを最大限に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を目指す。算数を中心に研究を深める。

「あたたかく」（心の正しさをもって友だちと仲良くかかわり合う姿を支える）

- ・学級活動（学級経営）・なかよし班活動・児童会活動を中心に、子どもたち同士が豊かにかかわり合う場を数多く設定する。

様々な活動を常にスローガンと照らして見返し、行い方を更新しながら
目指す子どもの姿に迫っていく。